

岩手教区報

第339号
 立教184年3月1日
 天理教岩手教務支庁
 盛岡市馬場町3-40
 TEL 019-622-7962
 FAX 019-623-9597



「神の計らい」
 九戸支部長
 学生担当委員長
 権谷 正一

とても大きい声では言えませんが、私は読書が嫌いでした。子供の頃、本と向き合うことに憂鬱だった記憶が強いのですが、大学生になって、興味のある本を読むようになり、やっと苦痛を感じる事がなくなりました。

さて、ある年の直属青年会でのおちばがえりの時、時間をもてあまし気味になったので、従兄弟が持参した池波正太郎著『雲霧仁左衛門』という文庫本を手に取り、ページをめくってみると、これが意外に面白く、上下2冊を読み切っていました。それまでこの手の時代ものには全く興味がなく、少々なことでは絶対に手に取ることはないと思っていたのに、ハマったのです。きっかけは間違いなく「相当な暇」という、実に些細なことからの発見でした。でも、お陰でその後読んだたくさん本から感じたこと、学んだことは、自分にとって心の栄養になっています。もしこの時、この本を手にしなかったなら、その後読む本もガラリと変わり、30年後の今、私の人間性もかなり変わっていた可能性もあるのです。

こうしたきっかけや一瞬の気づきにも、偶然とは言

い難しい神様のお計らいがあるように思えるのです。『稿本天理教教祖伝逸話篇』88「危ないところを」の中に、土佐卯之助先生が北海道奥尻島で遭難した時間に、お屋敷で教祖が扇を開いて「オーイ、オーイ」と、誰かをお招きになっておられたと知り、お礼申し上げると、教祖が「危ないところを、連れて帰ったで」と仰せになったとあります。こうした「危ないところを連れて通って下さる」ご守護を、今の私たちもたくさん頂戴しているのではないのでしょうか。日々の至る所で、「そっちは危ないよ。こっちはだよ」と陽気ぐらしへお導き下さっておられると思うのです。道を先んじて歩む立場のお互いが、親神様、教祖のご守護をより深く身に感じ、ご恩報じの勤めに励む姿こそ、次代に続く人たちへの道しるべになっていくものと思います。

来月は新年度となり、学生さんや若年層の方には大切な時期を迎えます。コロナ禍の影響も含め、将来への希望や不安を抱える彼らに、親神様を真実の親と仰ぐ信仰の喜びを映すことができるよう、皆様と共に、持ち場立場の上から精一杯努めさせて頂きたいと思



「東日本大震災」10年の節目に

本年3月11日で、東日本大震災から10年の節目を迎える。改めて、犠牲となられた多くの御霊様方の安らぎをお祈りし、被災された方々に心からのお見舞いを申し上げたい。

大きい震災により、平穏な三陸沿岸の大地は激しい揺れと共に、未曾有の津波が押し寄せ、高さ10メートルの鉄壁といわれた防潮堤をも乗り越え、あらゆる家屋を飲み込み、尊い人々の命をも奪い去った。

被災された方々は、何故こんな理不尽な目に遭わなければならないのかという絶望感にさいなまれた事である。人の苦しみというものは、日常の幸せから思わぬ辛い衝撃に突き落とされた「落差」が大きければ大きい程、言葉にならない苦

難を感じる。又、私達は災害に遭うことで日々誰によつて支えられて生きてきたのか気づかせて頂いた。同時に、今度は誰を支えなければならぬかを自覚させられるのである。

それは人と人を「つなぐ」という行為によつて、「支える」ことの大切さがわかる。人と人がつながり合うことで支え合う力がわいてくる。つながる事で支えることが叶う。つまり「たすけ合う」活動となる。人と人、地域と地域、国と国などの繋がりによつて、復興への方向性なり希望が見えてくる。被災地の惨状を目撃した人々は、何からでも支援の力になればという誠の心をもつて、ある人は災害隊の一員として、又ある人はボランティアの一人として何からでもたすけの手を差し伸べ、御霊となられた方々の無念の思いが少しでも晴れるよう、又、家族や大切な方々を亡くされた多くの方々の癒しとなるよう心を寄せて歩まれた歲月であろう。抑々、本教の災害救援ひのきしん隊をはじめ全国から馳せ参じた多くの人々の献身的救援活動は人の絆であり、社会の成熟の現れともいえる。

この10年間、災害復旧や街づくりなどの形は或る目標に達成できたとしても、

家族や大切な方を失った人の心の悲しみ、立ち直りは生易しい事ではない。生活支援のないところに安心はないが、大震災の支援の柱の一つは「心のケア」「心の復興」とも言われる。家が建ち、人が集まったら、人間関係をつなぐ街づくりが構築されてくる。被災地の抱える「復興も道半ば」の今日、10年という節目を期して御霊様方に安心していただけるよう、思いを新たに邁進したいものである。



行事予定

【3月分】

- 1日 東日本大震災慰霊祭 (11時30分 於宮古市田老)
- 2日 主事会 (9時)
- 2日 献血推進研修会 (10時)
- 13日 役員会議 (献血推進研修会後)
- 13日 教区小史編集委員会 (10時～14日)
- ” 婦人会例会 (10時半)
- ” 青年会例会 (18時)
- ” 学生担当委員会 (19時)
- 21日 女子青年例会 (10時)

「全教一斉ひのきしんデー」 【4月29日】

「全教一斉ひのきしんデー」に向けて ―来年は提唱90周年―

ひのきしんは、私たち人間が、日々親神様から身体をお借りし、使わせて頂いていることへの報恩感謝の行為であります。「全教一斉ひのきしんデー」は、日ごろのひのきしん活動の集大成として、全教のようぼく・信者が、それぞれの土地所で心一つにひのきしんをする日です。また、その姿は地域における大きな力をいがけとなります。

来年は、「全教一斉ひのきしんデー」提唱90周年の節目を迎えます。岩手教区では、来年の90周年に向けて、今年から参加者数の増員を図ってまいります。毎年参加して下さる方はもちろん、こうした機会に初めての方や遠方の方にも声をかけ、陽気ぐらしの輪を広げる大切なつなぎの日にさせて頂きましょう。

コロナ禍の状況にて、各会場におきましても十分に感染防止対策を講じてつとめさせて頂きましょう。また、会場を設

けることが難しい場合、教会やようぼく家庭周辺で少人数でひのきしんを行うなどの工夫をしてくださるようお願いいたします。

なお、会場や時間につきましては『天理時報』に掲載されませんので、「教区・支部情報ねっと」のホームページなどを参照ください。



厚生部

「里親啓発研修会」開催される



厚生部は、去る2月2日午後1時30分より教務支庁を会場に、初の「里親啓発研修会」を17名の参加で開催した。現在、教内の里親登録者はおよそ641世帯で、2年後の天理教里親連盟創立40周年まで

に、「里親登録1千500家庭」の目標が打ち出され、その啓蒙の上からの開催となった。開会の後、実際に里子を預かっている教会の里親活動の実情と元里子（本部勤務者）へのインタビュービデオを上映した。

その後、連盟委員である郡川善嗣先生（小南部大・戸来分教会長）が登壇。まず、無担任教会に移り住み、なかなか地域に馴染めない中、里親を始めたことで地域の信頼を得る事ができ、更には、青森県で初めてのファミリーホーム開設に至ったと話された。続いて、今、保護者のない児童、虐待待児など、家庭環境上養護を必要とする児童は、全国に約4万6千人おり、天理教の里親活動への期待は高まっているとされ、岩手教区管内から一人でも里親登録をして頂きたいと、熱心にかつキューモアを交えてお話しいただいた。最後に、里親登録、関連することについての質疑応答があり、閉会となった。



婦人会

「今年度の行事」について

今年の教区婦人会としての主な行事は、支部婦人会ごとの総会、または集いを開催することになりました。これは委員長部長と、特に委員長部長後継者、教会子女間の親睦を深め、支部婦人会の活性化につながることを目的としています。

支部によって対象者を委員長部長、後継者、教会子女に限定するところと、会員を含めて総会にするところがあります。

内容はおつとめ、ビデオ鑑賞、おたのしみ行事など、支部によって異なります。マスク着用、三密を避けるなどの対策をとりながら心豊んで開催させて頂きます。

支部婦人会行事予定

- 5月29日(土) 二戸支部婦人会総会
- 7月3日(土) 盛岡支部婦人会の集い
- 7月11日(日) 花巻支部婦人会の集い
- 9月19日(日) 三陸支部婦人会の集い
- 11月14日(日) 奥州支部婦人会の集い
- 11月14日(日) 一関・県南支部婦人会の集い
- 11月21日(日) 九戸支部婦人会の集い



学生担当委員会

「立教184年 春の学生おぢばがえり」

既報の通り、今年の「春の学生おぢばがえり」は左記の通り2つの行事で行われます。詳細は教区学生担当委員長・権谷までお問い合わせ下さい。

「道の学生おぢばがえり推進期間」 【2月1日～3月25日】

教区学生担当委員会としての引率は致しません。個人や家族、教会単位でのおぢばがえりをご案内させて頂きます。期間内におぢばがえりされた学生さんは、Web Happist+内の「学生帰参報告ページ」にて報告をお願いします。

「道の学生オンラインの集い」 【3月28日 10時30分】

本部学生担当委員会より配信される「春まつり」「式典」(約45分)を、個人で視聴頂くようご案内します。その後の「団体アワー」について教区学担では、Web会議アプリ「Zoom」を利用したオンラインでの集いを予定しています。案内チラシ



献血推進委員会

「バレンタイン献血 ひのきしん」報告

去る2月6日(土)、岩手県赤十字血液センターの依頼により、イオンモール盛岡南において、「献血呼びかけひのきしん」を実施し、3名が参加した。

前回のクリスマス献血の際は、目標人数には達しなかったが、今回は初めての献血の方が多く、目標人数の44名を達成した。新型コロナウイルスの影響で献血者が減っている中、医療崩壊の危機が迫っているのを感じて、不要不急にはあたらない献血への協力者が多かったものと思われた。

献血は私達にできるたすけ合いの一つです。4月29日(木)の「全教一斉ひのきしんデー」では、教務支庁を会場に献血ひのきしんを実施します。今、自分にできるひのきしんの一つに、献血を加えてみませんか。